

山の百名花

遠足会員 鎌田 寛

【33】タカネセンブリ

花の多い山、焼石岳を訪れるのは、いつもハクサンイチゲの頃だった。

ここには、ヤケイシセンブリと呼ばれたこともあるタカネセンブリの変種があると先輩に教えられていた。去年八月、その先輩とタカネセンブリを求めて焼石岳をめざした。めざす花は、頂上直下の登山道脇に咲いているはずだと言われ、黙々と登る。

姥石平を過ぎ最後の急登にかかると、まもなく先輩から

「この辺にあるはずだ」

と声がかかる。登山道の脇を探しながら行くくと、草丈五センチ位で白い小さな花を数個つけた花がひっそりと咲いていた。夢中でシャッターを切っていると、また先輩から声がかかる。

「それは違うよ。普通のタカネセンブリだ」
また探しはじめると、あった。今度は、白い花びらに青い斑点の入った花をつけたものが見つかった。先輩に確かめると「うん、それだ」

花全体が青紫に見え、一段と神秘的だ。よく見ると、可憐な姿を、そちこちに秘めやかにたたずませている。

夢中で写真に収め、満足して帰路についた。



【34】コイチヨウラン

何年か前早池峰に登った時、登り始めて間もなく、アオモリトドマツの林の中で、ひっそりと咲いているコイチヨウランを偶然見つけ、バカチョンに収めてきていた。

しっかりと写した写真を撮りたくて、それから早池峰に行くたびに探していたが、見つけられなかった。

今年八月、夏休みで帰郷していた知人が、ハヤチネウスユキソウを見たいというので

同行した。あいにくその日は濃いガスだったので、ハヤチネウスユキソウをカメラに収め、早々に五合目から引き返すことにした。

アオモリトドマツの中に入り、風も弱くなってきたので、コイチヨウランを探しながらゆっくり歩いてみると、あった！前に見つけたすぐ近くに、一株見つけた。さらに探すと、うす暗い林の中で数株ひっそりと咲いていた。草丈わずか七、八センチ位の茎の先に、直径五ミリ位の小さな花を二、三個つけ、黄色いすき透るような花びらは、清楚な感じで、まるで小さな妖精だ。

こおどりしながら、今度はじっくりとカメラに収めた。今思えば、花の咲く時期に来ていなかったのかもしれない。

